

はじめに

西川長夫

今回の「報告書」(6)には、2007年6月3日に早稲田大学の大隈庭園内にある完之荘で行われた「松下清雄を語る会」の座談会の記録と、この会にかんする今西一氏のコメントが掲載されている。

私たちの研究会では、戦後の茨城・常東農民運動と松下清雄氏の関係者の方々にお会いしてお話を聞く計画を立てていたのであるが、それを知った大金久展氏や関係者の方々が、すでに予定されていた「松下清雄を語る会」に私たちの参加を認めて交流の場を設けて下さることになり、このような集まりが実現した。

当日の参加者数は、私たち研究会のメンバーも含めて21名、他に出席を予定されていた方で病気や交通事故でやむなく欠席された方もあったものの大変な盛会であった。出席者全員に発言いただいた座談会の時間も1時半から4時半の長時間におよび、その間、司会の今西さんの懸命の努力にもかかわらず話は時に錯綜し、時には公表をはばかるような微妙な、歴史の暗部に触れることもあって、公表を躊躇う一時期があったことが、公刊の遅れた大きな理由の一つであった。だが、他方ではこのような貴重な歴史的証言をそのまま埋もれさせてしまうのも許されることではないだろうという思いもあって、このような形で公刊にふみきった。

今回このような形で公刊が可能になったのは、テープ起しから初めて、その後の出席者たちとの連絡や校正などをほとんど一人で引き受けてくれた番匠健一さんの労を惜しまぬ働きによるところが大きい。このような形で公刊をお許しいただいた出席者の皆様のご好意に感謝するとともに、番匠さんの尽力に感謝したい。